

《担当者名》真島 理恵 (rmashima@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

この講義では、心理学研究において広く用いられている研究手法のひとつである質問紙法、および質問紙法のデータ分析においてよく用いられる多変量解析の方法について解説する。質問紙法の意義や実施の方法、結果の分析方法について解説し、研究目的に応じた質問紙の作成・分析を自ら行えるようになることを目的とする。

【学修目標】

質問紙法の目的・実施方法・結果の分析方法についての知識を身につけ、質問紙を作成できるようになる。
質問紙データの分析方法を理解し、多変量解析を行えるようになる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス・質問紙法とは	ガイダンス、質問紙法の概要について理解する。	真島 理恵
2	質問紙法の基礎(1)	項目作成の基礎について理解する。	真島 理恵
3	質問紙法の基礎(2)	項目作成時の注意点について理解する。	真島 理恵
4	質問紙法の基礎(3)	調査の実施方法について理解する。	真島 理恵
5	質問紙法の基礎(4)	尺度の信頼性の検証方法について理解する。	真島 理恵
6	質問紙法の基礎(5)	コーディングとデータ入力について理解する。	真島 理恵
7	因子分析(1)	因子分析とは何か、因子分析で用いる用語について理解する。	真島 理恵
8	因子分析(2)	因子分析の結果の見方、項目の取舍選択について理解する。	真島 理恵
9	因子分析(3)	因子分析の手順について理解する。	真島 理恵
10	因子分析(4)	因子軸の回転、因子の解釈について理解する。	真島 理恵
11	因子分析(5)	Rコマンドを用いて因子分析を行い、因子分析の具体的な実施方法を学ぶ。	真島 理恵
12	回帰分析(1)	回帰分析の考え方、単回帰分析と重回帰分析について理解する。	真島 理恵
13	回帰分析(2)	重回帰分析実施時の注意点や用語について詳細に学ぶ。	真島 理恵
14	回帰分析(3)	重回帰分析の具体的な実施方法を学ぶ。	真島 理恵
15	まとめ、様々な多変量解析	様々な多変量解析について、どのような場合にどのような分析を実施できるかを学ぶ。	真島 理恵

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（約60%）、及び授業内で課す課題（約40%）の成績で評価する。

【教科書】

なし。資料を配布する。

【参考書】

- 荒木 孝治 RとRコマンドではじめる多変量解析 日科技連出版社 (2007)
- 南風原 朝和 心理統計学の基礎 統合的理解のために (有斐閣アルマ) 有斐閣 (2002)
- 鎌原雅彦・大野木裕明・宮下一博・中沢潤 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房 (1998)
- 松尾 太加志・中村 知靖 誰も教えてくれなかった因子分析:数式が絶対に出てこない因子分析入門 北大路書房 (2002)
- 小塩真司・西口利文 (編) 質問紙調査の手順 (心理学基礎演習) ナカニシヤ出版 (2007)
- 尾崎 幸謙・荘島 宏二郎 パーソナリティ心理学のための統計学[心理学のための統計学6] 誠信書房 (2014)
- 清水 裕士・荘島 宏二郎 社会心理学のための統計学[心理学のための統計学3] 誠信書房 (2017)
- 浦上 昌則・脇田 貴文 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書 (2008)
- 吉田 寿夫 本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ちょっと進んだ 心に関わる 統計的研究法の本 I 北大路書房 (2018)
- 吉田 寿夫 本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ちょっと進んだ 心に関わる 統計的研究法の本 北大路書房 (2018)
- 吉田 寿夫 本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ちょっと進んだ 心に関わる 統計的研究法の本 北大路書房 (2018)

【備考】

すべての回に出席することを前提に講義を進める。授業を欠席した場合には、各自の責任において、配布資料や課題内容等を確認し、必要な対応をとること。

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムを使用するため、様々な研究への参加・協力に応じて、5%を上限として最終評価への加点が行われる可能性がある(詳細については初回講義にて説明)。

< ICTの活用 >

Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を行う。

Google Classroomを利用して授業資料の配付と学習課題の提示を行う。受講可能性が少しでもある学生は、初回前に本科目のClassroomに登録しておくこと(履修をとりやめた場合は後で削除可能)。

Google Formsを活用し、授業についての質問や感想を収集し、随時Classroomでフィードバックを行う。

Google Formsを使用した理解度の確認を行う。

【学修の準備】

前回の講義資料を精読し、内容を十分に理解しておくこと。「資料を見ずに内容を他者に説明できる」ことを目標に復習を繰り返すこと。(80分)

授業内で課される課題を指定された期日までに行い、必要に応じて提出する(50分)。一部、授業外で次週までの宿題として実施する(30分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- ・心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
 - ・社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
- 上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。